

医療系学科 1 年生合同ワークショップの効果的实施 — 8 年間の振り返りより —

長宗雅美、岩田貴、辻暁子、石田加寿子、東瞳、赤池雅史
(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター)

1. はじめに

2007 年に薬学部 GP「医療の現場と直結した薬剤師養成教育の実践」で「医看薬合同ワークショップ」としてスタートした本取組は、2011 年度より蔵本地区 1 年生全員を対象とし、チー

ム医療を行うための基盤形成を目的とした「大学入門講座」のひとつとして継続・発展されている。実施後の学生アンケートをもとに、過去 8 年間の振り返りを行った。医療系学部学生の基礎的汎用的能力育成の機会として効果的なワークショップ企画、運営、実施方法について検討したので報告する。

2. 実施状況

実施年度	医学部					歯学部		薬学部	合計	テーマ
	医学科	栄養学科	保健学科(看護)	保健学科(放射)	保健学科(検査)	歯学科	口腔保健学科			
2007	89	—	68	—	—	—	—	87	244	「求められる医療人とは」「職種の専門性と連携」
2008	95	—	70	—	—	—	—	79	244	「求められる医療人とは」「職種の専門性と連携」
2009	102	—	70	—	—	10	3	82	268	「求められる医療人とは」「職種の専門性と連携」
2010	103	51	73	—	16	37	15	78	373	「医療の質と安全を向上させるために私たちが学ぶべきこと」
2011	114	50	67	37	17	36	15	79	415(92%)	「医療人を目指すものとして東日本大震災から学んだこと」
2012	112	51	70	35	17	36	13	79	413(93%)	「チーム医療を行うために必要な能力とは」
2013	115	53	70	38	19	36	15	77	423(93%)	「チーム医療を行うために必要な能力とは」
2014	114	50	70	37	17	41	16	86	427(99%)	「高齢化社会をむかえた医療のあるべき姿」

3. 方法および対象

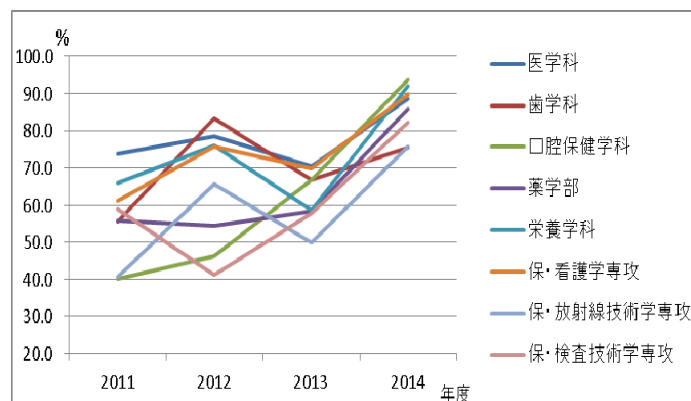
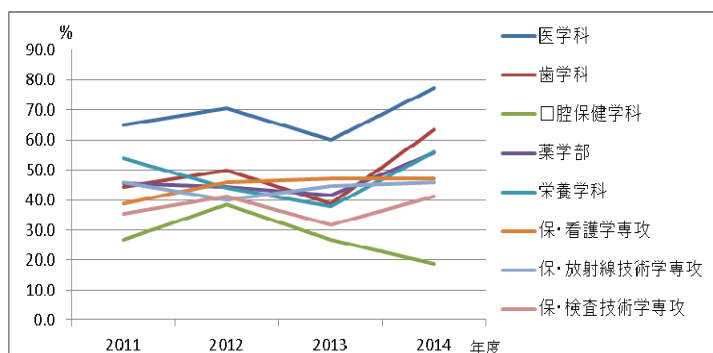
蔵本地区全学科の参加となった 2011-2014 年度の、ワークショップ実施後アンケート調査。

WS 進行において、何らかの役割を担っていた学生の割合は、学科によりバラつきがあった。

4. 結果

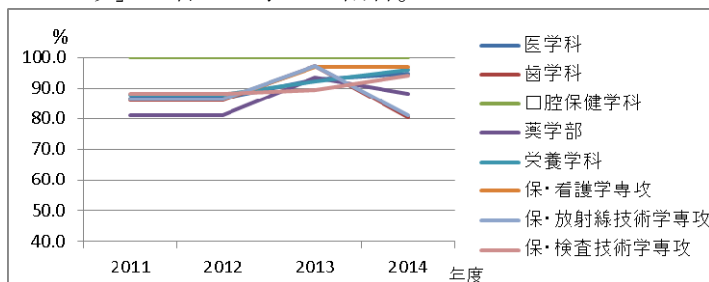
②「積極的に参加したか」に、「全くそう思う」「そう思う」と答えた学生の割合。

①WS で役割(司会、時計、発表)を担った割合



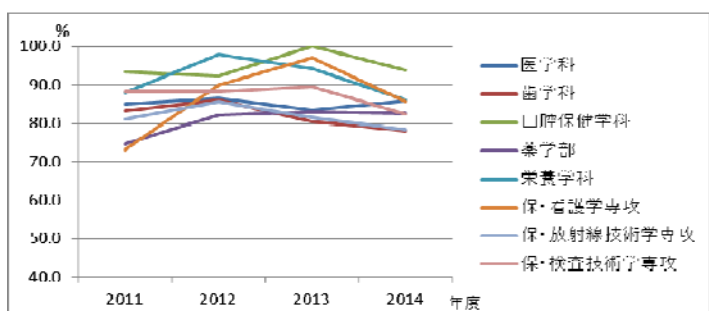
2011,2012 年度、「積極的な参加ができた」と答えた割合は学科においてバラつきがあったが、2012、2013 年度にはそのバラつきが小さくなっていった。

③「学部学科横断的な教育（他学科と学ぶ機会）を必要と思うか」に「全くそう思う」「そう思う」と答えた学生の割合。



他学科と学ぶ必要性は認識は当初から高い。

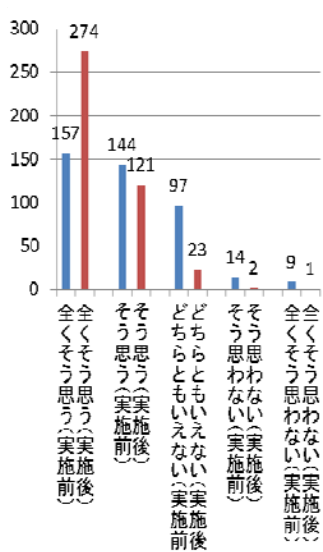
④「WS は良かったか」については毎回 8 割以上の学生が肯定的な回答をした。



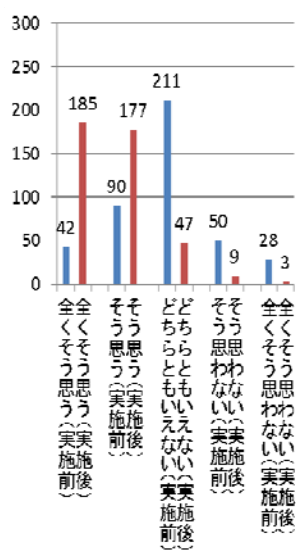
⑤2014 年度は、WS 前後の意識を調査した。

(回答数 421、回答率 99%)

Q. 他学部と学ぶ機会が必要か



Q. この WS は良かったか



どちらも実施前より、実施後の回答が、肯定的になっていた。

5. 考察

全学科の学生が、その割合は異なるが何らかの役割を担い参加している。学科ごとに特性があり、それがバラつきとして現れていると思われる。積極的に参加できたか否かは、与えられた題材や実施における工夫が影響する。実際の医療人の活動場面を題材にすると、それをイメージとして受け止めやすい学生は積極的参加へと繋がるが、その一方でイメージしにくい学生には積極的参加が難しくなるかもしれない。2014 年度は身近な高齢化社会をテーマとしたことが、高いポイントにつながった可能性が大きい。また 2011-2013 年度は 7-8 名のグループ編成であったが、2014 年度には 6 名までのグループとしたことも要因として挙げられる。学部学科を横断する教育の機会は毎年 8 割以上の学生が必要と感じている。2014 年度には多少バラつきが生じているがその幅は 2 割内にとどまっている。WS が良かったかどうかについては、これまでの質問に比べて差が見られるが、個人的な感覚が作用すると考える。その年度の学生カラーにもよるといふことであろうか。2014 年度に調査した実施前後の意識からは、実施前より実施後のポイントが高くなっていることが分かる。気が進まなく参加はしたものの、終わってみれば良かったと受け止めているのではないだろうか。

6. まとめ

2007 年度にスタートしたこの取組は、毎年工夫を重ね、蔵本キャンパス全体に広がり根付いてきた。全学科の 1 年生が共通に積極的に取り組める課題設定や目標設定、グループ編成の方法、チューターの協力体制などこれまで構築してきた運営のノウハウを活用して、医療系学生の汎用的能力育成の機会、ならびにアクティブラーニングへの導入に繋げるなど、さらなる発展が望まれている。